

令和5年度 飯綱町総合教育会議 会議録

日時：令和6年2月20日（火）午後1時30分から午後3時

場所：飯綱町役場 第2庁舎2階 第1会議室

出席者：町長、教育長、教育委員4名

事務局出席者：教育次長、総務課長、総務係担当1名、総務教育係担当1名

1. 開会

2. 町長あいさつ

今日はお忙しいところご参集いただきありがとうございます。本日の午前中に「よつばの会」と主に教育についての行政懇談会を行い、要望をお聞きしてきました。そこでの話をお聞きする中でも感じましたが、学校を作るとか保育園を作るとかのハード事業から、一人ひとりに満足を得てもらうような細やかな対応へと、県知事もおっしゃっているように県民ひとりひとりが幸せを感じる、ここに生まれてよかった、と実感してもらえる行政を展開してく時代になってきました。行政も個々の要求に見合ったサービスをどうやって展開していけば良いのかを考えていくことが求められる難しい時代になってきたことを感じています。そんな意味でも、教育委員の皆様と、これからの飯綱町の宝ともいえる子供たちの教育について密に協調・連絡を取り合いながら、素晴らしい飯綱町をこれからも創造していきたいと感じております。一層のご尽力を賜りたくお願いを申し上げます。

3. 教育長あいさつ

お忙しいところ、ありがとうございます。町長とも同じような話になりますが、いま、教育だけに限らず日本の国も世界でもいろいろな所で分岐点を迎えていると考えています。一昔前の経済力にものを言わせて先進国だけが発展していくことに破綻をきたしており、環境問題や、国と国との紛争の中で世界が分断され、日本の国の中では自然災害が起り地域が分断されていく、そんな中で国の一声でみんなが同じことをするようなことは出来ない時代になっています。教育も文部科学省の音頭取りで何かをするのではなく、地域の文化や伝統・特性を生かした飯綱町にあった教育をどう作っていくかを問われていることを感じています。今日は基本方針について皆さんにご意見を伺いたいのですが、飯綱町の10年後、20年後、50年後を見据えた教育にかじを切っていけたら良いと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 協議事項

（1） 令和6年度飯綱町教育委員会基本方針について

次 長：資料により説明

町 長：予算案については3月定例議会において審議をお願いする予定にしておりますが、

一部抜粋でご理解をいただきたいと思います。何かご質問・ご意見ありましたら、よろしく願いいたします。

委員：人権教育の集会で子供たちの発表がありましたが、その折に、昨年4月に保育園の入園式で出会った肢体不自由なお子さんが元気に独り立ちしているのを見て、きちんとサービスが充実し行き届いているのを実感して嬉しく思いました。

町長：個々のお子さんの事情に合わせた福祉や施設を提供するというのが実をつけた一例でした。

委員：1ページの牟礼小の担任1名の910万円はこんなにかかるのでしょうか。もうひとつ補助金のところの小中学校の通学定期の補助について具体的に教えてほしい。

次長：910万円には、先生だけではなく、支援員の人件費も入っています。通学定期の補助については、飯綱町から長野市等に通っておられる高校生に今まで行っていたが、国立や私立等の小中学校に通う方も対象として拡大したものです。

町長：奨学金は利用者が30数名がいます。

委員：2ページ学校給食について。給食センターは手作りをしていますが、職員不足で困っているようです。機械化をして作業を手助けした方が良いでしょうか。

次長：本年度に予算をつけていただき、自動の裁断機を購入させていただきました。また、ひとつの方法としては業務の委託という選択肢もあるので、どの方向を目指すかを検討しなければいけないと思います。

町長：一般の職員よりは待遇を改善してきてはいますが、辞めてしまう職員も多い状況です。

町長：給食については、お米は100%有機米で賄えると思っています。また、ICT関連事業についても、体育の授業などで科学的に分析したり等に取り入れています。

教育長：ICTも出来あいのものを導入するのではなく、地元企業が授業に参加して、飯綱町の実態に沿って開発してもらっています。

委員：８ページ子育て支援について、情報発信にもっとお金をかけてやることはできないでしょうか。

次長：すでに過去の年度において予算支出によりシステムを構築済みで、今はそれを利用している状況です。

委員：農家も含め１歳になったら保育園に出したいという、働きに行きたいお母さんが多いのを実感します。保育士さんが足りないということですが、住宅を用意したり優遇したりして、保育士を確保して、飯綱町に来れば０歳児からどんどん預けられるという町にしたら良いのではないかと思います。

委員：中学校の部活動について、クラブに以降するのか、今後どうなっていくのか心配しています。方向性を早く知りたいです。

教育長：検討委員会が始まっています。飯綱町が独自では進められないので、広域的に連携していきます。県全体の中でそこに飯綱町も加わってくという方向性です。独自に飯綱町でクラブを作りたいという声もありますので、講師も含め対応が可能となることがあれば、全体の動きとは別に進めてもよいと思っています。今の小６生が中学にあがるまでに方向を示すことは難しいので、一旦中学の部活に入っていただくようになります。情報については、決定が次第お知らせするという状況です。

町長：他にないようでしたら、こちらの案でよろしいでしょうか。

～一同異議なし～

（２） その他

町長：よつばの会からの要望書について。中学校のクラスが２クラスになってしまったこと、夏休みなどの長期休みのデイサービスに関しての定員について、補助金の整備、中間教室、補助の先生を増やして欲しい、などの要望がありました。

教育長：生徒数が７０人でも３クラスにならない件については、特別支援学級の生徒はクラス数の判定には含めないという制度になっており、昔は交流学习をすることがなかったものでそれで良かったのですが、制度が古いままになっています。私からも県へこ

の制度はおかしいと思うという指摘はしていますし、長野市も議会から嘆願書を出したようです。また、教員の不足という問題もあり、町が独自で採用しようと思っても、確保ができないという課題もあります。

委員：先生を増やして欲しいということですが、少人数学級ほど力がつくこともあるかもしれないが、少人数学級ほど先生が大変で、良い先生がつかないと学級が崩壊してしまいます。教員の人材も変化してきており、講師ではあまり良い人材が来ない傾向にあります。親も少し意識を変えていかなければならないと思います。

教育長：教師の数を増やすというのは、教師が教えるということを前提に考えていますが、今の学校現場は主語が「子供が」に代わっています。子供がどう学ぶか、教師が一人ひとりに関わらなくても、子供が自ら自分の課題を進めていく、そこにＩＣＴ機器の活用があり、そのあたりを啓発する必要があると思っています。

町長：ありがとうございます。よつばの会の要望書のお返事に関しては、私と教育長に一任いただき、しかるべき形にして報告をしたいと思います。

５．閉会

１５：００